

在木浦領事館

卜
務
目

5-0124

0077

主官 通商局

要書

川年十二月八日 會計

機密第七号

軍銃短銃備付ノ件

當地ハ曾テ東學堂ノ巢屈トハ他道ニ比シ今ニ無賴
ノ徒モ亦多キ安ク有テ何時以何志出來事ナリトモ
難申共間存警備用ニテ軍銃短銃各二十挺彈藥
相添本館脚備付置相成度此段上申共也

明治三十年十一月二十五日

在木浦

一等領事久水三郎



外務次官小村壽太郎殿

近テ右脚送付方ニ警備艦派遣ノ節同艦ニ
脚此送相成共ニ税関ノ手致上為都合

在外公館

此又差ニ本邦ニ脚都右ヨシカク又此ニ釜山
ニ守備隊ノ屯在アリ銃器モ左迄必要ナラザル
標被存此間同艦ヲ轉換相成共標致
及為都合申共

第二二一號



斗我、有之者、右に備用トシテ、水設二領
 事館ニ軍銃及短銃ノ備付ケル必要ヲ感
 じ既在本浦館事より、右備付ノ急ナル者上
 申請居ルに、有之、物テ、旧東京博ヲ始シ
 仁川、釜山、元山各館ニ、量、等、取トシ
 恒儀ノ上夫々ノ方法ヲ以テ、右館器備付ケノ例
 有之者、右水設兩館、モ、以、際、別、他、ノ、通
 リ、館器ノ備付、及、右、等、取、特、等、別
 外務省

此ノ事、大ケテ、海方ノ、然、取、中、本、在、
 備付、及、右、等、取、也

本浦館ノ館備付ケル
 一軍銃短銃 各二十挺
但し、此、等、取、非、ニ、彈、藥、共、
 鎮南浦館ノ館備付ケル

一合ニ 全ニ



5-0124

0082

年	月	日	記号	品名	頁	數	殘數	摘要
明治	三年	二月	十六日	スナイドル銃	百	四	〇	轉國事館敵備用子彈官轉授
送附	二〇〇	号	全	實	包	二〇〇	〇	〇
<p>左之通り致送連候也 明治三年二月十六日 東京陸軍兵器廠長 林 上 丞 外務大臣 野村 西 徳 次 郎 殿</p>								
<p>第一一號 屬 銃 送 証 兵器彈庫</p>								

記録課長 明治三十一年二月十八日謹啓

明治三十一年二月十八日起草 村上唯吉 主任
同 〇年 〇月 〇日發遣

通商局長

送第二三號

東京陸軍兵器本廠宛

外務省

韓王浦船南浦領事館備用兵器彈藥

行海ノ裁奉月十七日附丁第一九號ヲ以テ

外務省

裁ヲ起スル事即チ別取入票呈出スルハ

昌領租税引替ノ後ヨリ返上之支回奉

此取上進也

明治三十一年二月十八日

浄書原校正原

二十八日

領收証

一 スライド式 鏡

四十枚

一 写真 包

二十個

合計 領收五枚

明治三十四年二月十八日

外務大臣 野村浩平

東京府 芝罘 芝罘 芝罘 芝罘

外務省

次官關了

機密

急

六

明治三十年四月六日 起草村上唯吉
同日廿二日 四月八日 發遣

主任

通商局長

在在備
久水一等領事宛 外務次官

客月二十日附投密牙七箱ヲ以テ銃器彈藥

半館備付品トシテ理由送付カノ件至テは上申

外務省

起リテ送致セラルル量陸軍省ト協議シ上既後

軍部省引續キ受テ居ル所トシテ地方官ニ送

付方安直ニ使ヘ可ク之ヲ書信送付上ノ程也

考案等以テ之ヲシテ軍部省長官ニ送付セ

交回参事以此ルル也

五五五

第一等四日

通商局

通商局

本有機密第七号

次官

機密 第八四号

通商局

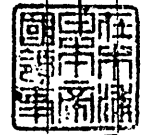
庚戌十一月廿五日附機密第七号ヲ以テ本館
 三軍銃及短銃在二十挺彈藥在法は備附
 方上申及並、要右、如何在成、或近日来内
 地或部、分、於、ラ、ハ、多、額、ノ、徒、ヲ、集、リ、本、浦、襲
 撃、シ、企、ツ、ル、者、有、之、太、大、ノ、海、風、況、ノ、ミ、ト、在、リ、
 共、進、ニ、米、價、高、直、倉、庫、民、等、大、ニ、困、難、ヲ、訴、在、
 事、情、ヲ、本、館、再、港、ヲ、領、向、ナ、キ、ニ、モ、
 ラ、ス、ノ、旨、不、棄、ノ、備、ト、レ、テ、右、ニ、備、附、方、可、能、ノ、
 兵、隊、又、ハ、公、領、事、館、備、附、兵、中、ヲ、轉、換、
 之、以、共、目、下、條、約、ナ、キ、旨、回、答、有、之、存、テ、本
 邦、ヲ、通、送、シ、請、ム、ル、可、ク、ナ、ル、ヲ、存、
 在、外、公、館

右重テ及上申ノ部是

明治三十三年三月三十日

在木浦

一等領事久水三郎



外務次官小村壽右郎殿

浄書
原
印

明治三十一年五月六日 起草
同 年 月 日 發遣
村正守吉 押

主任

通商局長
内閣

機密

文部省

急

第八號

在木浦之水領事館 外務大臣

全西伯利亞阿爾泰地方之...

平館備有團之ナイドル銃二十挺 同密包十個

五月十二日 神戶農務部より日郵船會社汽船屋

外務省

張九種載之至館所ノ帝軍軍艦所也

其持物ノ事及在送付ハ...

由方ニ致シ付先各道長方依...

定規定者之ニ付...

中ノ進...



明治三十一年五月十六日接覽

善通商局



本省機密第九号

次官閣下

機密 五四七

去月八日附稱密送第六号ノ以テ本館備片銃器彈藥
 送致シテ法中向金ニ解リ兼有度聞シテハ當時恰モ摩耶
 艦破泊中ニシテ今艦長福間中佐及當時在留中ノ
 日本郵船會社支配人島村清夫ノ内談ノ上其結果
 八通ノ阿部主計及帰報ニ際中傳言中ニテハ吾商
 船倉庫中ニ於テ右銃砲ニ貴地ノ事最郵船
 會社中ノ付葉中包裝在在亦浦中ニ於テ
 元舟軍艦摩耶号行ノ中ニ記載在在也
 地直ニ運送ノ事頃有付括括亦ニ彈藥積
 込ニ僅少ニモヨ高松ニ故障有之様ノ字局ヨリ
 中ノ船ヲ運山、運ニ今所ヨリ摩耶艦ニ交付
 事ニ中ノ船ヲ運山、運ニ今所ヨリ摩耶艦ニ交付

在外公館

釜山ヲ徑當地廻航ニ若ニ接聞其際今艦ニ搭載
 した事ニ今艦長ニ并令保長有兩様中便更ニ
 中ノ船ニ其音中報在在也其後同着り進航
 敬具

明治三十一年五月四日

在東浦

一等海軍少佐水三郎



外務省及少尉部ニ即致

三十一日 六月六日

記録課長



明治三十一年六月二日 起草
同 年 六月六日 發遣

打上存

主任

田中角次



書信

日本郵船株式會社

社長近藤隆平氏 敬慮

田中角次内田康哉

拝啓 昨午貴社主簿外に所寄の書信を致し、

先般承知したる事、誠に遺憾に思召し、

明治三十一年六月七日

外務省

先般承知したる事、誠に遺憾に思召し、

先般承知したる事、誠に遺憾に思召し、

先般承知したる事、誠に遺憾に思召し、

先般承知したる事、誠に遺憾に思召し、

早稲

大書了

第九七八號

明治六年六月三日

主會會計課

事務司引繼

納印

要目

本府機密第一〇号

本府之官財機密送交外署ヲ以テ本館備付申上ル
 又本館之銃二千枝實包千發屋張也係申官送交外署
 事系之銃了最在申官九日送到通致本館存貯
 別修保管手續ニ申數ヲ要セリト本館將又軍銃
 一合時ニ申一銃中短銃二千枝ニ違申送付外署
 本館ニ由地移外南人由地ニ於テ強盜等ニ出會又本東
 學堂黨群起申ノ際人民保護及出展ヲ案之爲
 今一短銃ニ最ニ必要ノモノニ移向在外申了最可申
 連ニ申備付外署前修銃収申報外署
 重丁申進外署

明治三年一月廿九日

在東浦

在外

一等會計司水三郎



外務省中村嘉三郎殿

浄書心校正
原久
漢字に

明治三十一年六月九日
起普部
日發遣

次官閣下
通商局長

主任

持合

機密

九一

桂海軍大臣宛 外務大臣名

在樺國本浦及韃南浦領事館發警備用軍銃
意旨是等事本館在樺國本浦領事館發警備用軍銃
又該地在留本邦商人等樺國內地移住中強盜等
會或本署殊覺情狀不安極力保護之必要
此係本署之責由本署發警備用軍銃之必要
右備付之為本浦領事館發警備用軍銃之旨
右西公館備用軍銃之別地之旨本署發警備用軍銃
特別之注意係本署之責由本署發警備用軍銃
此係本署之責由本署發警備用軍銃之旨

外務省

別記

本浦欽年録備書

一卷

十五

但し附録あり

新南浦欽年録備書

一卷

十五

但し附録あり

右

外務省

